

「さきみどり」および「はるみどり」は蒸し製玉緑茶に適性を有する					
[要約] 「みなみさやか、りょうふう、さきみどり、はるみどり」の収量調査および市場評価の結果から、「さきみどり」ならびに「はるみどり」の蒸し製玉緑茶用品種としての適性は高い。					
佐賀県茶業試験場 茶樹研究担当		連絡先	0954-42-0066 E-mail: chagyoushiken@pref.saga.lg.jp		
部 会 名	茶業専門部会	専 門	栽 培	対 象	茶

## [背景・ねらい]

茶の主要品種である「やぶきた」は優れた品質を持っているが、品種の組み合わせによる摘採期の分散も重要な課題になっている。そこで、本研究では、本県の主要茶種である蒸し製玉緑茶に適した品種選定の基礎データを得ることを目的に、現地適応性が高いことが確認されている「みなみさやか、りょうふう、さきみどり、はるみどり」の収量調査および大型製茶機(60K)で加工した蒸し製玉緑茶の市場評価を行う。

## [成果の内容・特徴]

1. 露地栽培における5～7年生の供試品種の平均生葉収量は、一番茶では同程度(約300 kg/10a)であり、二番茶および年間合計では「さきみどり」が最も多い(表1、2)。
2. 露地栽培における蒸し製玉緑茶の落札価格指数(入札日における蒸し製玉緑茶の平均落札価格に対する試験茶の価格指数)は、一番茶では「はるみどり」が最も高く、続いて「さきみどり」が高い。二番茶では、「さきみどり」および「はるみどり」は平均落札価格と同等である(表3)。

## [成果の活用面・留意点]

1. 品種の詳細な特性については、茶業試験場および各地域の農業改良普及センターに問い合わせる。
2. 市場評価は西九州茶流通センターにて行い、上市時は品種名を表示した。
3. 栽培管理は佐賀県基準に準じ、摘採前の被覆処理は行っていない。  
(施肥: 定植当年に被覆肥料で N:P:K = 27.4:23.5:27.4 (kg/10a) を施用し、3年目以降は N:P:K = 50:20:24 (kg/10a) を成木園の施肥量とし、3年生で55%、4年生で70%、5年生で85%、6年生以降100%の割合で施用)

[具体的なデータ]

表1 露地栽培における一番茶の生育および生葉収量(2006~2008年:5~7年生の平均値)

品 種	萌芽期* <sup>1</sup> (月/日)	摘採日* <sup>1</sup> (月/日)	芽数* <sup>2</sup> (本/m <sup>2</sup> )	百芽重* <sup>2</sup> (g)	出開度* <sup>2</sup> (%)	生葉収量 (kg/10a)
みなみさやか	4/9	5/7	1213±88* <sup>3</sup>	80.7±8.8	56.0±10.8	299±10
りょうふう	4/10	5/6	1196±73	65.0±4.2	23.7±6.6	299±30
さきみどり	4/3	5/2	1208±107	71.7±6.7	18.3±3.1	307±17
はるみどり	4/10	5/8	1550±125	65.7±8.6	36.0±3.3	307±34

\* 1:萌芽期および摘採日は3力年の平均日

\* 2:形質は20×20cm枠づみ調査

\* 3:平均値±標準誤差。

表2 露地栽培における二番茶の生育および生葉収量(2006~2008年:5~7年生の平均値)

品 種	摘採日* <sup>1</sup> (月/日)	芽数* <sup>2</sup> (本/m <sup>2</sup> )	百芽重* <sup>2</sup> (g)	出開度* <sup>2</sup> (%)	生葉収量 (kg/10a)	一・二番茶の 合計収量 (kg/10a)
みなみさやか	6/19	1463±97* <sup>3</sup>	63.0±0.7	48.0±12.7	309±12	608±13b
りょうふう	6/18	1550±230	67.5±6.0	41.0±15.6	319±16	618±23b
さきみどり	6/17	1169±128	89.0±10.6	18.0±7.1	446±16	753±18a* <sup>4</sup>
はるみどり	6/21	1357±5	66.5±0.4	77.0±0.7	313±40	619±30b

\* 1:摘採日は3力年の平均日

\* 2:形質は20×20cm枠づみ調査

\* 3:平均値±標準誤差。

\* 4:Holmの多重検定により、異符号間では5%水準で有意差があり。

表3 露地栽培における落札価格指数および荒茶成分(2006~2008年:5~7年生の平均値)

品 種	茶期	入札日* <sup>1</sup> (月/日)	蒸し製玉緑茶 平均落札単価	価格指数* <sup>2</sup>	全窒素* <sup>3</sup>	タンニン* <sup>3</sup>	NDF* <sup>3,4</sup>
みなみさやか	一番茶	5/14	1401±98* <sup>5</sup>	101±4	5.27±0.12	11.9±0.6	19.3±1.1
りょうふう	"	5/11	1624±117	110±7	5.47±0.05	12.4±0.5	18.2±0.7
さきみどり	"	5/4	2735±377	120±10	5.43±0.20	14.5±0.6	17.3±0.9
はるみどり	"	5/12	1499±171	124±12	5.53±0.07	11.7±0.8	18.8±0.2
みなみさやか	二番茶	6/26	717±34	96.7±7.2	4.63±0.21	15.4±0.5	20.8±1.2
りょうふう	"	6/24	754±24	87.0±3.1	4.43±0.20	15.8±0.9	21.4±1.3
さきみどり	"	6/19	786±43	99.3±2.2	4.37±0.22	17.3±0.9	21.5±1.2
はるみどり	"	6/27	716±36	98.7±3.9	4.20±0.08	16.1±0.6	23.0±0.4

\* 1:入札日は3力年の平均日

\* 2:価格指数は、入札日における蒸し製玉緑茶の平均落札価格に対する指数

\* 3:荒茶成分は近赤外分析装置(茶成分分析計GT-8S)で行い、単位はdw%で表示。

\* 4:NDFは中生デタージェント繊維

\* 5:平均値±標準誤差。

[その他]

研究課題名：優良品種導入のための県内適応性検定及び栽培法の確立

予算区分：県単

研究期間：2006～2008年度

研究担当者：中村典義、徳重憲治、東島敏彦、野中一弥、釘本和仁、山口史子